

●一流演奏者招き音楽祭

置県百年（一九八三・昭和五十八年）記念に建設された「県総合文化公園」（宮崎市船塚町）が、文化の殿堂として全国から熱い視線を注がれている。特に県立芸術劇場は多彩で質の高いプログラムを発信、多くの人に感動を提供している。

敷地面積一六・五畝。かつての宮崎大学農学部跡地で、県立図書館、美術館、芸術劇場がコの字形に並び、中央に文化広場、西側に県民広場が配置されている。市中心部から近く、利用者も多い。

施設は本県文化の中核だけに、内容も充実している。

県内外から最も注目されているのが芸術劇場。一九九三（平成五）年開館。クラシック音楽専用のアイザックスターンホール（千八百十八席）、演劇専用ホール（千百十二席）、イベントホール



宮崎国際音楽祭（2002年）。一流演奏家を招き、世界に宮崎を発信

（三百席）を有し、アイザックスターンホールには高さ十メートル、幅一三・五メートル、音栓六十六という国産では最大級、西日本一といわれるパイプオルガンが設置されている。

同劇場の存在を全国に広めたのが、九六（同八年）年に始まった「宮崎国際室内楽音楽祭」。世界的バイオリニストのアイザック・スターンさん（二〇〇一年九月死去）を中心に、国内外から一流演奏家を招き、数日間にわたってクラシック音楽の魅惑の舞台を展開、全国のクラシックファンに強烈にアピールした。

スターンさんの死去に伴い、昨年（同）から「宮崎国際音楽祭」として再スタート。第八回の今年は五月二十一日から六月三日まで。今ではすっかり宮崎の春を彩るイベントに定着、アイザックスターンホールでの演奏のほか、日向、えびの市などで出張コンサートを開催、県民に広く

一流演奏に触れる機会を提供する。

このほか、音楽祭が力を入れているのがアジア地域の次代を担う演奏家の育成。県内小学生を対象としたプログラムもあり、「学ぶ音楽祭」としても評価を高めている。

芸術劇場のほかでは、図書館が八八（昭和六十三）年にトップを切って開館。八十万冊の収蔵能力を誇る。

美術館は九五（平成七）年の完成。宮崎出身の画家の作品や、有名画家の作品を定期的に紹介する「常設展示室」のほか、本県の生んだ前衛画家・瑛九（本名杉田秀夫）の作品三十点が常時鑑賞できる「瑛九展示室」がある。

文化公園の近くには「県総合博物館」、さらに宮崎神宮があり、本県を代表する文化ゾーンとなっている。